

平成 29 年 9 月 13 日 (水)

日本地球化学学会ポスター発表



東京工業大学大岡山キャンパスで9月13日(水)～9月15日(金)に行われた日本地球化学学会で、9月13日(水)に「白馬地域の蛇紋岩を使った熱水実験」と「地球で最も若い花崗岩露頭の発見に向けて」のポスター発表を行いました。昨年度、東京工業大学地球生命研究所を3回訪問し、昨年8月に大町市西部で採取したサンプリングをもとに、「世界で最も若い花崗岩露頭の発見に向けて」の研究では花崗岩からジルコン分離、U-Pb年代測定をもとに、今後、黒部川花崗岩体中心部から東側にかけての年代データが増えれば、さらに若い花崗岩が見つかる可能性を示唆しました。「白馬地域の蛇紋岩を使った熱水実験」では、実験で発生した水素量は現在の白馬の温泉水に比べて、温度の違いを考慮しても濃度が低く、マグネサイトに鉄が取り込まれ、水素発生に必要な溶存鉄が少なかったために水素ひいてはメタン発生も抑えられたと考えられることを示唆し、初期地球の高濃度二酸化炭素は有機分子合成の炭素源というより、水素・メタン発生を抑える方に作用する可能性があることを発表しました。今年度の課題研究でも、2年学究科の生徒が引き続き実験・データ解析の続きを行っています。東京工業大学を訪問した時の昼食時には、大岡山キャンパスを見学するなど課題探究能力の向上ばかりでなく大学生と触れ合うキャリア教育の1日となっています。

